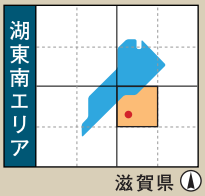
史跡
県指定

千僧供古墳群（せんぞくこふんぐん）

近江八幡市千僧供町・長福寺町　昭和59年3月30日指定



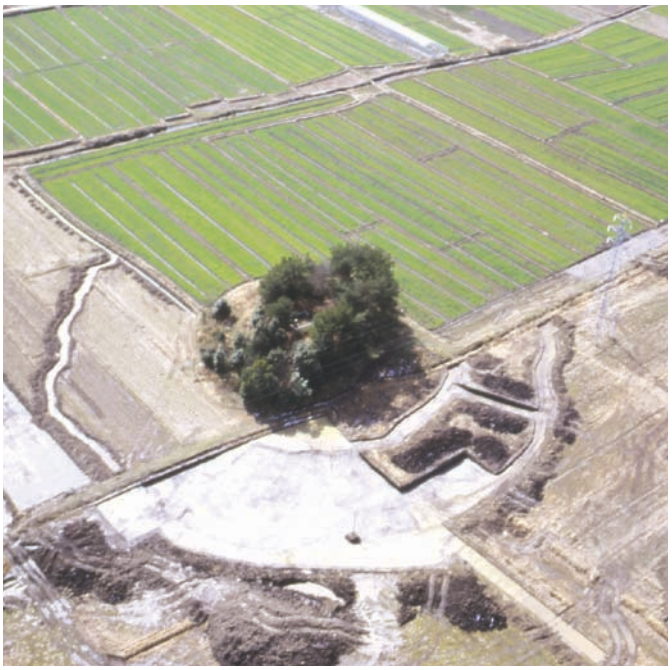
千僧供古墳群は、近江八幡市の南東部の平地にある古墳群で、現在、供養塚（くようづか）古墳、住蓮坊（じゅうれんぼう）古墳、岩塚古墳、トギス塚古墳の4基の古墳が残されています。この地域における、5世紀中頃から7世紀にかけての在地首長の系譜をたどることのできる古墳群として重要です。

当時のできごと	
5世紀中頃	最大の古墳、大山古墳（伝仁徳天皇陵）が造られる
479年	雄略天皇没する
552年	百済の聖明王、舒明天皇に仏像その他を贈る

千僧供古墳群の概要

千僧供古墳群はもとは、10基以上の古墳からなる古墳群でしたが、現在残されているのは以下の4基だけとなっています。古いものからその概要を紹介します。

住蓮坊古墳は、墳丘径が約53m、堀を含めるとその径が約93mにも及ぶ、県下でも屈指の大型円墳です。葺石、埴輪は確認されていません。堀から出土した遺物から、5世紀中頃の築造と考えられます。**供養塚古墳**は、もとは円墳と考えられていましたが、昭和57年度に実施した発掘調査の結果、後円部径約37m、前方部幅約22m、堀を含めると全長が約70mの帆立貝式の古墳であることがわかりました。葺石があり、多くの形象埴輪が出土しており、この年代から5世紀の終わり頃に築造されたと考えられます。また、江戸時代と昭和9年に鏡や武器武具類が出土したことが知られています。**岩塚古墳**は、径が27.5mの円墳で、幅2m、長さ11mの横穴式石室が露出しています。6世紀末頃の築造と考えられます。**トギス塚古墳**は、主体部のほとんどが消失していますが、直径が14m程度の円墳で、幅1.5m、長さ5mの横穴式石室を主体部とします。出土した土器から7世紀初頭の築造と考えられます。


住蓮坊古墳

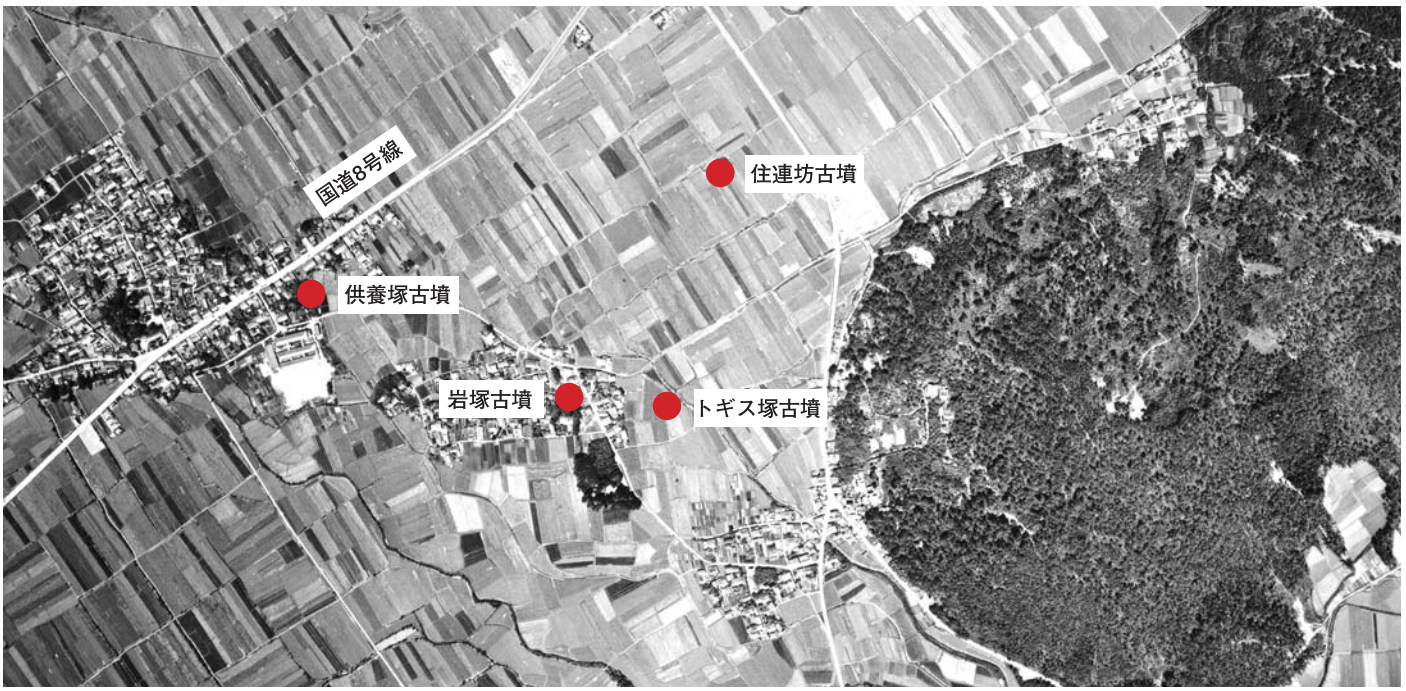

岩塚古墳


供養塚古墳

供養塚古墳出土の埴輪

供養塚古墳の発掘調査では、多量の埴輪が出土しました。特に滋賀県では出土例の少ない蓋（きぬがさ）形、家形、靫（ゆき）形、甲冑形、馬型、鳥形、人物形などの形象埴輪が多数含まれていて、注目されます。出土位置から、蓋形埴輪は墳丘部の円筒埴輪の間に、人物、家、馬、甲冑形埴輪は墳丘のくびれ部に設けられた、造り出し付近の外側の一画に集中して配置されている可能性の強いことがわかりました。

埴輪の実態がよくわかっていない県内で、埴輪を置いた位置が復元でき、その種類も多いことから、古墳の祭祀を考える上で重要な資料となっています。また、円筒埴輪の製作技法は、大阪府の百舌鳥、古市古墳群のものと類似していることから、被葬者の性格を考える上でも、重要な手がかりを与えてくれます。



千僧供古墳群位置　昭和30年代



供養塚古墳出土埴輪

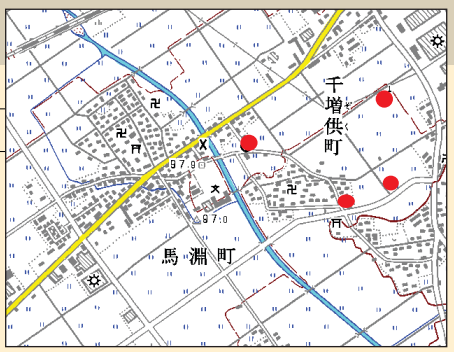
関連する文化財

木村古墳群（蒲生町）	学習シートNo.052
八幡社古墳群（八日市市）	学習シートNo.043

もっと深く知りたい

近江八幡市教育委員会	☎0748-33-3111　近江八幡市桜宮町236
安土城考古博物館	☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

千僧供古墳群へのアクセス　JR琵琶湖線　近江八幡駅下車



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔供養塚発掘調査報告〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月